



日本人とフィリピン人の親をもつ子ども（JFC）とその母親への人身取引

JFCの多くが、1980年代後半から日本に出稼ぎにきたフィリピン人の女性と日本人の間に生まれた子どもたちです。彼らの多くはフィリピンで暮らしていますが、2009年に新国籍法が施行され、日本人の父親が認知すれば、日本国籍を取って「日本人」として来日できるようになりました。しかし、その多くは、日本での住居や就労先の当てがないため、仲介業者を頼って来日せざるを得ず、そのため、人身取引の搾取構造が生みだされています。

今回のセミナーでは、改めてJFC母子が直面する現実と課題を知り、これまでの支援経験をふまえて、カトリック教会として今後どのようにかかわっていくのか、一緒に考えたいと思います。

プログラム

- ・開会の挨拶と祈り： **山野内倫昭司教**（日本カトリック難民移住移動者委員会委員長）
- ・講演： JFCが抱える困難と人身取引
伊藤里枝子さん（NPO法人JFCネットワーク事務局長）
- ・講演： カトリック内外のネットワークによる「岐阜事件」への取り組み
ビデオ上映
ビスカルド篤子さん（カトリック大阪教区社会活動センター・シナピス）
- ・質疑応答・意見交換
- ・閉会の挨拶と祈り： **シスター弘田しずえ**（タリタクム日本運営委員長）

開催日

5.13 (土) 14:00-16:00 英語通訳付
ZOOM オープン13:30～

事前申し込みが必要です。以下のURLもしくはQRコードからお申し込みください。後ほどZOOMのリンクをお送りします。

<https://forms.gle/szSaq1FBLBctLixf9>

